

挑む 中小企業

第33回神奈川工業技術開発大賞

④



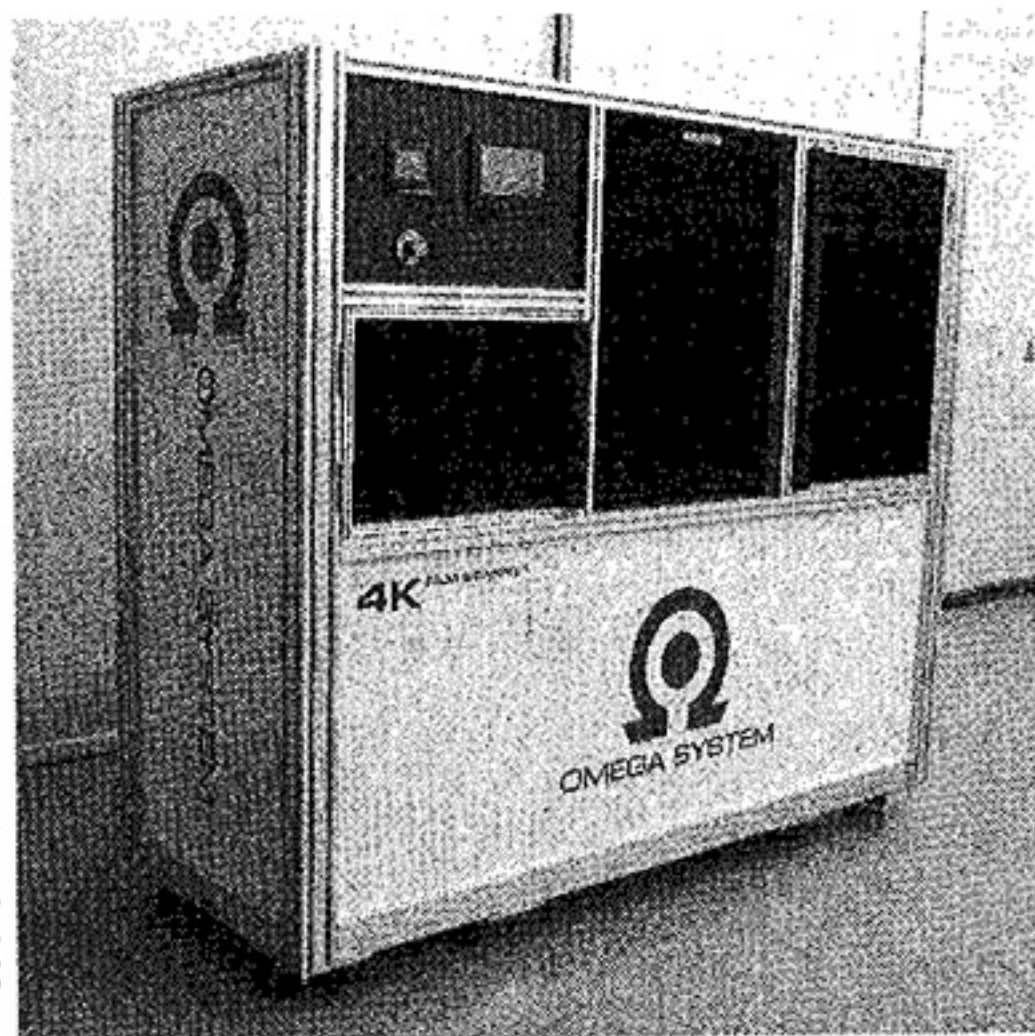
武正 社長
金究 社長

時間の経過とともに劣化が進む映画上映用フィルム。強度の低下や変形、収縮が起きたフィルムをさらに傷めることなく、4Kのデジタル画像に変換する装置を開発した。劣化状況を問わず、高画質での保存を実現。映像本来の質感もリアルに再現した。撮影から数十年経過した貴重な映像資料の保存や活用が課題となる中、画期的なシステムとして注目を集めている。

映画フィルムをデジタルデータに変換するスキャナー装置は従来から存在する。しかしフィルム縁の送り穴を爪（突起部）に引っかけて送る方式のため、フィルム破損の恐れがある。さらに劣化の著

ビジネス賞

山勝電子工業（川崎市高津区）



劣化の進んだ映画フィルムにも対応できるデジタル化装置（山勝電子工業提供）

しいフィルムでは、装置にセットすること自体不可能という。

一方でこの装置は、波打ったり縮んだりした古いフィルムを破損させずに映像を読み取ることができる。機械本体のホルダーや回転ドラムにフィルムを吸着させ、ホルダーをコンピューター制御で送る仕組みで、従来の方法ではデジタル化が困難なほど劣化しても金究武正社長が目を見張

たフィルムにも対応。担当者は「フィルム送りの制御に精密さが求められた」と2年の開発期間を振り返る。高画素のセンサーで読み取ったデータは、クラウド上やブルーレイディスクでの保存が可能。保存の省スペース化や低コスト化も図っている。

装置はすでに、資料価値の向上に寄与し始めている。中でも金究武正社長が目を見張

ったのが、1945年の終戦直後に被爆地でフィルム撮影された映像。戦後70年を報じるニュース番組の資料映像で使用するためデジタル化を進める中で、それまで広島と思われていた撮影地が長崎だったことが判明した。「映っていた看板の小さな文字を判読できたのが大きな決め手」と金究社長。

既に、県内外の自治体や記録映画を保有する映画会社などからの引き合いが相次いでいるという。「古い映像を放っていたら貴重な財産が人目に触れることなく失われてしまふ」（金究社長）。こうした危機感こそ、社会貢献性の高いビジネスの原動力だ。

（鈴木 美帆子）

◆山勝電子工業 1973年設立。資本金7千万円。CAD設計、電子回路・機器の設計、プリント基板の受託開発・生産など。従業員数85人。川崎市高津区末長。

古いフィルム 4Kに